

# 気候変動調査:東大の准教授、球泉洞の水採取 済々黌、東稜高で特別講座 /熊本

毎日新聞 2013年09月20日 地方版

鍾乳石やサンゴを使って過去の気候変動などを調べている東京大大気海洋研究所の横山祐典准教授（43）＝熊本市出身＝が19日、済々黌高、東稜高の生徒とともに調査のため球磨村の鍾乳洞「球泉洞（きゅうせんどう）」を訪れ、洞内の水を採取した。

同研究所が、研究内容に興味を持ってもらおうと18、19の両日、開いた特別講座。18日は横山准教授が両校で地球温暖化などについて話した。

この日参加したのは両校の1、2年計約50人。球泉洞に入り、岩肌から流れ出る水をボトルに採取した。11月に両校の生徒計10人が千葉県柏市の研究所を訪問し、今回採取した水の成分などを分析する。

球磨村総合運動公園内に露出、人吉盆地が湖だった時代にできた人吉層も見学した。